「自立した学習者の育成に向けた授業展開の工夫」について考える

令和６年度 第１回管内地域授業改善協議会からの学び　【日田教育事務所】

【要旨】

「第1回 日田管内地域授業改善協議会」
◆参加者
　〇小･中･義務教育学校 教務主任等 〇管内市町教育委員会関係者 〇教育事務所 計51名
◆日時･場所
　〇令和6年4月25日(木) 14:15～16:30 〇日田市民文化会館パトリア日田･1階ギャラリー
◆目的
　管内の各小・中・義務教育学校の教務主任等を対象に、自立した学習者の育成に向けた授業づくりについての説明・協議を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する。

【参加者アンケートの記述より】

子どもの実態とめざす姿

●グループ学習は好きだが、その内容を相手にわかるように説明する力が弱い。課題に対する深い話し合いができていない。
●課題に対して受け身の姿勢が強く、支援や指示を待っていることが多い。
●指示に対して熱心に取り組んでいるが、思考や作業が停滞するような場面で教師を頼りすぎてしまう傾向が見られる。自立した学習者の育成に向けて、家庭学習と授業の往還の見直しなどを課題解決の糸口にしていきたい。

子どもを中心にすえ、考える授業づくり

●教師側ではなく、子ども側に軸を置いてしっかり見取ること、教師が子どもにつける力を明確に意識することが大事だと感じた。
●事務所長が「型にとらわれることなく」「子どもを主語に」と言われた真意は、授業づくりにおいて「型を守ればよい」のではなく、「目の前の子どもたちを中心にすえて考える」ことが大切であるということなのだろうと感じた。
●受け身ではなく、主体的に学習する子どもたちを育成することの必要性が理解できた。所長の「子どもたちに寄り添った、型にはまらない授業を構築する」という言葉に心が揺さぶられた。

授業者が取り組む授業改善

●若返りのある職場では、今まで以上に単元づくりに力を入れていきたい。授業を楽しんでできる集団を目指したい。
●授業改善のための単元の作り方や教師の役割について学ぶことができた。
●「理解させたい」「進めなければならない」と先を急いだり、説明しすぎたりしてしまいがちである。「待つ」、「丁寧すぎない」ということも心がけなければならないと感じた。自立した学習者を育てることの難しさを改めて感じた。

組織的に取り組む授業改善

●個人での改善を促すのではなく、組織的にカリキュラムをデザインし、マネジメントしていく必要がある。しかし、個人任せでは、負担感や時間がないで終わってしまう。学校として組織的な取組が授業改善・OJTにつながると考えている。
●自立した学習者を育成する授業づくりには、生徒の実態把握や学年部等で共有する時間が必要であり、とりわけ配慮が必要な児童生徒について、発達段階を専門的知見から判断することが手がかりになる。
●教師主導ではなく、子どもが主体となる授業の在り方、そのための単元計画や改善のポイントを確認できた。

本協議会を通して…

●生徒自身が自分で考えて学習に向かうような授業展開を目指していきたい。所属校での日々の取組を再確認するきっかけとなった。
●他校の教務主任や指導教諭等の先生方と、各所属校における共通の課題を確認することができた。
●「集中できない」「落ち着かない」子どもたちが活き活きと活動できる授業をつくるためのヒントを聞くことができた。

★第2回は、「自立した学習者の育成に向けた授業における現状と課題」について協議し、改善へのヒントを探ります。2学期以降の具体的な取組につながる演習を予定しています。よろしくお願いいたします。